

* 労働市場速報（平成27年8月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、101,673人で、前月比0.2%増となった。
- 有効求職者数（季調値）は、107,635人で、前月比0.1%増となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は0.94倍となり、前月と同じ。

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、34,441人で、前月比6.4%減となった。
- 新規求職者数（季調値）は、24,410人で、前月比2.6%増となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.41倍となり、前月から0.14ポイントの低下となった。

- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、建設業（8.4%減）、情報通信業（16.5%減）、専門・技術サービス業（3.0%減）、宿泊業、飲食サービス業（26.4%減）で減少した。他の産業は増加した。全産業では前年同月比1.2%の増加であった。【表4】。

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比3.5%減）、在職者（同4.8%減）、無業者（同14.0%減）でともに減少した。

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、8月の受給者実人員は29,860人で、前年同月比6.7%減少した。

（雇用情勢の概況）

8月の有効求人倍率（季調値）は0.94倍で前月と同じ。

求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比1.2%増加、新規求職者（原数値）については、3.4%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

■景気判断は日銀横浜支店（8月） ■雇用情勢判断は21ヶ月据え置き

今後も、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。